この実だより

《第207号》
2018年1月号
発行者
社会福祉法人 札幌この実会
札幌市西区西野969番地
TEL. 011-663-2233

謹賀新年

社会福祉法人 札幌この実会
理事長 佐藤 保

新年あけましておめでとうございます。
療生の皆さん、保護者の皆さん、役職員の皆さん新しい年を健やかに迎えられたことをお喜び申し上げます。

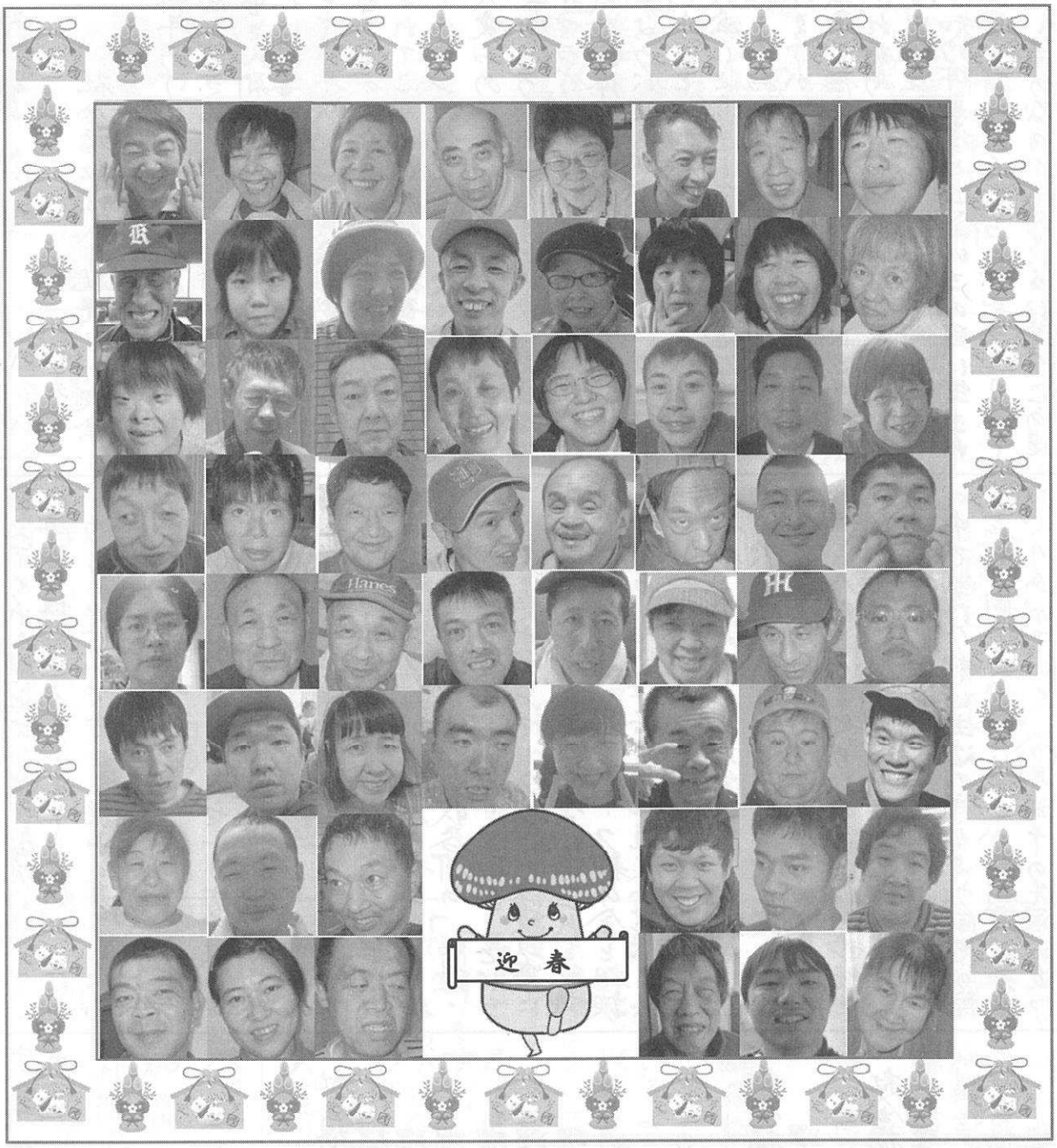
さて昨年秋、この実会草創期から療生の皆さんの幸せのために文字通り粉骨砕身されてこられた加藤孝療長がバンク・ミケルセン記念賞受賞の栄に浴するという大変おめでたい出来事がありました。開くところによりますと従来の受賞者はノーマライゼーション理念を具現化実践された団体に贈られたものが全てで、今回のように個人が受賞するというのは初ということ、加藤療長はもとより札幌この実会にとりましても大変名誉なことだと思っております。ご存知の方は多いと思いますが、加藤療長はもともと民間企業出身で福島県の農業試験場に3年間派遣され福島、山形、長野、青森と地域を回る中で厳寒、厳暑で悲惨な生活をする知的障害者と出会いこの国に生まれた障害を持った人たちの幸せづくりができないものなのかと考えるに至りこの道に入ったということです。加藤療長にとってのこの道の人生の師は福祉のイロハを教えてくれた滝止士先生と苦境に陥いでいる障害を持つ本人さんとその家族だったということです。ですから療長の基本にはいつも職員が悩んだら「本人達に学べ」という言葉をかけます。

奇しくもバンク・ミケルセンもナチスのレジスタンス運動で獄中生活を余儀なくされ終戦により解放された後、デンマーク社会省の知的障害者課に配属されます。そこで障害者入所施設の調査において大型施設に収容されている知的障害者の姿が自らの姿と重なり、さらにナチス収容所の「隔離・収容・断種」政策と酷似していたことにショックを受けデンマーク政府の保護政策に大きな疑問をもつようになり、これを契機にミケルセンは、デンマーク親の会と相談しながら、知的障害者の処遇改善運動と具体的な制度づくりを開始し、根本的に社会の体制を変えていく方向に大きく舵をきりました。療長もきっとこれまでと変わらず「この実会」のことだけでなく全ての障害のある人たちの幸せのため、常に一歩先を見つめこの人たちの本当の幸せはどんな障害があっても普通の人々と同じように地域の中で当たり前に生活できるよう同志の輪を広げ、国・自治体に働きかけ制度政策をつくりあげていく、今年もその先頭に立って東奔西走することでしょう。ノーマライゼーションの実現のために！世の中から"障害者問題"がなくなるために！

社会福祉法人札幌この実会
理事長 佐藤 保
理事 加藤 孝
理事 木村 昌次
理事 斉藤 宏子
理事 梅井 治雄
理事 佐藤 悟
この実サポートステーション
佐藤 悟
この実支援センター
口屋 美子
社会福祉法人あむ
理事長 松川 敏道
大久保 董
社会福祉法人NIKORI
理事長 武井 眞紀子
山崎 千恵美
社会福祉法人藻岩この実会
理事長 小笠原 俊一
佐藤 仁

謹賀新年

この実支援センター



～あけましておめでとうございます～

この実支援センターに関わりのある利用者さんが勢揃いしての新年のご挨拶です。一人ひとりの顔・かお・貌…、それぞれがたった一つの笑顔の花を咲かせられるような一年にしたいですね。花のあとには確かな実りを結べるような、そんな未来を思い描いて胸が躍ってしまうのも、お正月の良いところでしょうか…。今年は春に多機能型事業所への移行を控えており、激動の一年となりそうですが、新たなる挑戦の一歩を利用者さんたちと一緒に踏み出していきます。どうぞ宜しくお願い致します。

この実サポートステーション

明けまして
おめでとうございます。

2017年、楽しかった！
2018年も、もっと
楽しく過ごせますように！！

すいんぐ

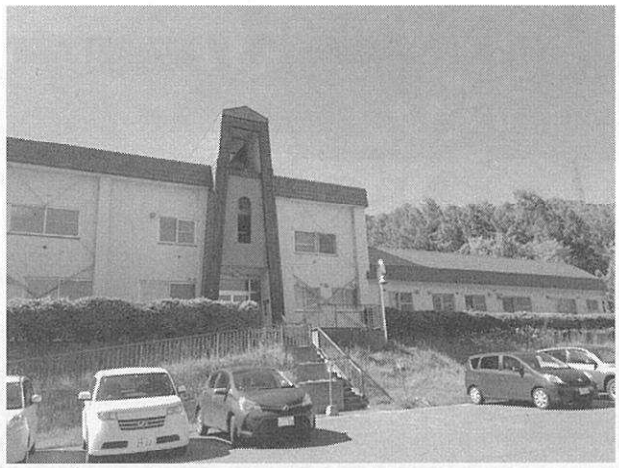
すきっぷ

ふらっと

みんと

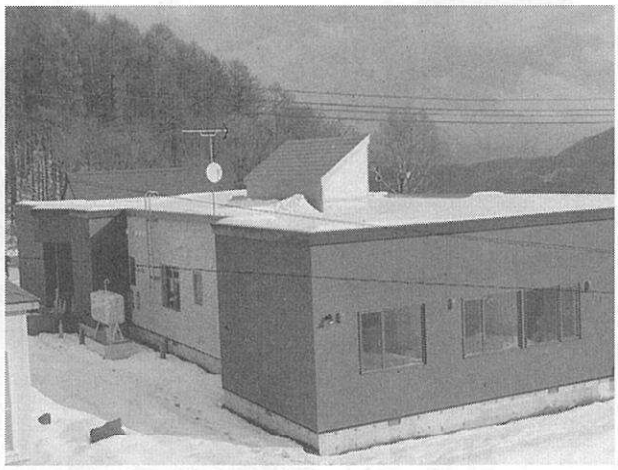
この実支援センター建替・改修工事進む！

この実支援センター
所長　口屋　美子



改修前の支援センター（^^♪
青い屋根がまぶしい！

昭和四十八年に手稲この実寮（寮）として建築された建物は老朽化が著しく、今後の方針について委員会を設けて検討してきました。この実のシンボルである三角屋根の部分を残したいという意見もありましたが、検討の結果、断腸の思いで全面解体することにしました。入所施設を廃止し、昔の部屋を再現した資料室は全国から見学の方が来訪されていましたが、残念ながら残すことはできませんでした。解体した跡地に、昭和五十四年に手稲この実寮（寮）として建築された建物をグループホームとして使用していたケアホーム969を新築移転することにしました。ケアホーム969が移転した後に改修工事をして旧寮をこの実わーくネットで日中活動に使用することとしました。春より工事を始めて、現在はグループホームが完成したところです。これから引っ越しをして、969に住んでいるみなさんは、木造の新築で木の香りに包まれて生活することになります。この冬は、工事の途中で、この実わーくネットは旧寮の残された半分のスペースで活動することとなるので寮生たちには不便をかけることもありますが、春には快適な活動場所になることでしょう。



完成が待ち遠しい（^_-）-☆

手稲この実寮は入所を解体した時に、グループホームの「この実らいふネットL」と就労継続支援B型の「この実わーくネットL」に転換しましたが、この実わーくネットの寮生も高齢化が進み、最高年齢七十三歳、六十歳を超える方が十四名となりました。さすがに就労継続支援B型というよりは、もっとゆったりとした生活介護がふさわしい方も増えたため、平成三十年四月には多機能型事業所への変更を予定しています。生活介護を利用される方には、体力や気力の維持を図りつつも、地域貢献できるような作業をしながら、今までよりはゆったりと余暇も楽しめるような日中活動を提供していきたいと考えています。一方でまだ二十代、三十代の若い方や就労意欲の高い方は就労継続支援B型として、より交通の便の良い琴似での作業場所を確保し、活躍できる準備を進めています。

さて今回の工事には、この実親和会の皆様に多大なるご協力をいただきましたことをあつく御礼申し上げます。

ロータリー
愛の鐘